

理事長新年あいさつ

公益社団法人移行とボランティア 理事長 船越 昇

あけましておめでとうございます。皆様と御家族にとってこの1年が健康で平和な年になりますようお願いしています。

平成24年は当センターにとっては節目の年になります。すでにお知らせしていますように、4月1日から公益社団法人に移行します。皆様の仕事の内容や仕事の進め方は変わりませんが、看板に「公益」の二文字が付くことで、世間の見方が変わってきます。社会的評価が高まり、税制面で優遇されるなどありがたい面はありますが、経営内容は厳しくチェックされ、仕事の半分以上は不特定多数の人に役立っているかなどと公益性が問われてきます。



シルバー人材センターを取り巻く環境は近年大変厳しくなってきました。公的支援は先細りの状況にあり、受注競争は激しさを増しています。一方、センターに対する地域社会からの期待は高まっています。資金、人材が限られている中で、高まる地域の期待にどのように応えていけばいいのか、全国シルバーが共通して抱えている問題です。この回答の一つはボランティア活動にあると私は考えています。会員のボランティアの行動を地域活性化に結びつけていく、こんな風土をセンター内で盛り上げていきたいと願っています。

当センターにおけるボランティア活動の実践例は少なく、会員の関心も高いとはいえません。昨年10月初めに役場交流ホールで開いた第7回文化展は6人の運営委員を中心に初めてボランティアで実施しました。会員外の出展者が増え、来場者も4日間で600人を超すなど展覧会は盛会でした。同月末に実施した「シルバーの日」の関連行事・祝園駅周辺の清掃ボランティアには、会員22人が参加しました。

ボランティアは、自らの自由意志に基いて行動することが特徴で、対価を求めないのが基本です。他の人や社会のために役立ちたいという願いを行動で示すことで生きがいを高め、活動を通して地域の人々や仲間との交流を深めることができます。

人々の生活ニーズは多様化する一方で、企業や国、自治体が提供するサービスだけではとうてい要望に応じることはできません。既存のサービスのすき間を埋め、地域社会の要望に応えていこうというのが私たちが目指すボランティア活動です。

現在のセンター会員の多くは健康を保持し、生活は年金で支えられているという恵まれた境遇にあります。社会の中で生かされているという感謝の気持をボランティア活動で表現したいと考えています。センターのボランティア活動にふるって参加してください。

新年ごあいさつ

事務局職員一同

専務理事	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副理事長	理事長
局長	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務
綿崎	安岡	谷所	和正	松尾	松尾	福井	久村	羽場	信秋	玉岡	井上	川野	船越
健	誠	治	樹	敏	雄	夫	勝	男	人	彰	子	豊	昇

謹賀新年 平成二十四年元旦